The Membership of the National Museum of Modern Art, Kyoto

京都国立近代美術館 友の会会報

2008
EARLY SUMMER
第19号

秋野不矩　残雪　京都国立近代美術館蔵

展覧会の見どころ

秋野不矩展

4月8日[火]—5月11日[日]

休 館 日：5月5日を除く毎週月曜日

夜間開館：金曜日午後８時まで（入館は午後7時30分まで）

インドを描く

秋野（あきの） 子弦（みつる）

私は六人兄弟の三番目で、秋野不矩と晩年の三〇年を一緒に暮らしました。母は私たち兄弟が、絵の道を進むことを望みませんでした。その理由は、自分より下手に決まっていると思っていたのでしょう。絵の学校へ行きたいと言っても反対されたので、私たち兄弟は全員違う道へ進みました。ところが、孫の代になったら言わなくなり、今、私の娘が絵描きになっています。孫にはやはり甘いですね。

母は、浜松市の北の天竜区、昔で言う二俣に生まれて、女学校まで二俣にいました。それから静岡の師範学校、現在の静岡大学で先生になる勉強をしましたが、師範学校を出て一年はお礼奉公で、二俣の小学校で教えていました。ずっと教師をするつもりでしたが、生徒たちにいじめられて、一年で辞めてしまいました。

インドの絵を描くようになったのは、インドにタゴール大学という美術や音楽、ダンス、芸術の大学があり、そこにおられた佐和隆研という先生が、母が五十四歳の時に帰国されて、インドで絵を教える人はいないかと言って、母が思わず手を挙げて、行きたいと言ったのがきっかけです。一年間、インドに在任しました。それ以来インドが好きになり、休みの度にインドへ出掛けていました。そして、京都芸大（京都市立芸術大学）を退官した年に、また一年、やっと楽になったと言って出掛けました。

足跡を振り返ると、インドの北から南まで、足掛け五年、インドに滞在していたと思います。六十歳以降、亡くなったのが九十三歳でしたから、三十年間もインドを描いていた勘定になります。インドは暑い国だと思われるかも知れませんが、十月から一月までは、日本の初夏のようでとても過ごしやすく、日本からインドへ行った方の三分の一の人は、好きになって帰ってくるようです。あとの方は、インドは厭だと帰られる人が多いようです。それは、多分、インドの雑踏が汚くて、臭くて、かなわない、というのが嫌いになる理由みたいです。母は、汚なさや臭さは、あまり気にならなかったようです。

最初の赴任地タゴール大学も、建物は普通の家だし、生徒に教える場所も、キャンパスの草原で、野外で話し合いながら教えていました。インドは英語圏ですから、教えるといっても、母は、英語がそれほどできないので、ただ絵を描いて生徒に見せてくれたらいいと言われ、何とか一年、無事に済んだようです。母の絵は、そんなインドの空気を描いたのだと思います。

終わりに母の言葉、「インドの計り知れない大地、信仰、これを享受する人々の複雑な深い生の悲しみは、いつも私を深く打ちました。それはえぐる様な悲痛の底に見る美しさであり、常にみたされぬ中の人間の、動物たちの生きるしたたかさであり又やさしさでありました。私はこの裸のインドにふれて示唆されたさまざまなものを、意味をこめて表現したいと思いました。」

（陶芸家・秋野不矩三男）

秋野不矩　土の祈り　1983年　京都国立近代美術館蔵

美心短信

村上華岳筆　タゴール像
1916年　木炭・墨（紙本）
個人蔵

タゴール国際大学にて
不矩さんとビシュダボース先生
1982年

「インドを描く」をご寄稿いただいて

筆者秋野子弦氏は不矩女史の三男坊である。子沢山はかつては少しも珍しいことではなかった。男の子ばかりの兄弟に、確か子弦さんのすぐ下は、紅一点の妹さん。戦後、福田豊四郎、山本丘人、上村松篁、吉岡堅二、広田多津、向井久万らと『創造美術』を結成された頃、不矩さんはモデルを雇うお金が惜しいと、自分の男の子たちを裸体モデルにして、絵を描いた。〈少年群像〉（1950年・第三回創造美術展）や〈青年立像〉（1956年・新制作春季展）などがその例である。何事にもこだわらぬ、淡泊な人柄であったが、そのまっ直ぐさがそのまま、インドへの道に導かれていったようだ。子弦氏の文章にあるように、彼女をインドへ導いた直接の契機は、当時不矩さんの勤務先であった京都市立美術大学（現・京都市立芸術大学）の同僚教授であった密教美術研究の第一人者・佐和隆研氏の要請による。当時、佐和教授は専門の日本密教美術の研究を更に拡げ、インド・東南アジアの研究に着手しており、この調査・研究旅行には、同校の教授であった上村松篁（画伯）らも同行した。このような調査・研究の副産物ともいうべきシャーンティ・ニケータン州のビシュババーラティー大学からの招聘であったが、インドへの長期出張には、さすがに並み居る先生たちは二の足を踏んだ。その時、手を挙げたのが、不矩さんであった。

ビシュババーラティー大学と日本の縁は、明治にまで遡る。東洋の文化・芸術の再興という大きな理想を抱いた岡倉天心は、その理想を共に語り、実現しようとして、1902年（明治35年）インドに詩人タゴール（ラビンドラナート・タゴール）を訪ねた。タゴールはシャーンティ・ニケータン（タゴールの父の所有地で瞑想の場としていた。）にこの前年学校を建てて、極めてユニークな子弟の教育を行っていたが、それは、賢者と弟子が森の中で共に暮らし、対話の中に真理を探究した古代インドの「森の草庵」の伝統を受け継ごうとしたもので、生徒五人、先生五人から出発したという。その後この学校は大きく発展し、20年後には国際大学、更に、インド独立後は国立ヒシュババーラティー大学となり、現在は、タゴール国際大学と呼ばれている。タゴールは1913年、詩集ギーターンジャリ〉（1910）など、その文学的・思想的・教育的な業績によって、東洋人としては初めてのノーベル賞を受賞した。日本にも三度来訪して、各地で講演を行い、大きな感銘を残している。子弦氏の文章を読むと、不矩先生の授業も、「森の草庵」スタイルを忠実に再現しているようで、興味深いものがある。タゴールは東西文明の最も良き部分の融合と相互理解を深く願ったが、時代は次第に戦争へと傾き、失意の中に、1941年カルカッタに没した。

（友の会事務局長・加藤　類子）

友の会よりのご案内

細見美術館の催し
〈江戸絵画の夢と光——若沖・北斎とともに〉

2008年4月18日(金)—6月1日(日)
(5月5日を除く毎月曜休館)

入館料：一般1000(団体800)円、学生800(600)円
本館友の会会員は団体料金で入場できます。
開館時間：午前10時—午後6時

細見美術館開館10周年記念の収蔵名品展の第一弾です。江戸絵画の名品が一堂に展示されます。江戸は鎖国時代で、文化が停滞した時代と、過去には評価されていました。実際には、江戸にも、京・大坂にも、多くの個性的な画家が輩出し、多彩な近世文化の花ひらいた時代です。

(主な出品作品)
特別陳列:〈豊公吉野花見図屏風〉(重要文化財)、伊藤若沖〈雪中雄鶏図〉、〈軍鶏図〉など五点、北斎〈五美人図〉、〈夜鷹図〉、池大雅〈児島湾真景図〉、冷泉為恭〈年中行事図巻〉、住吉如慶〈きりぎりす絵巻〉

なお、展覧会のお問い合わせは、細見美術館:広報担当三宅由紀さんまで。
(075−752−5555　細見美術館)

友の会の催し

友の会・京都市立芸術大学音楽学部共催によるコンサートご案内

●サマー・ナイト・コンサート
(ルノワール+ルノワール展開催中になります)
日時：6月7日(土)午後6時開演
(午後5時より正面テラスにてプレ・コンサート)

●オータム・ナイト・コンサート
(アーツ・アンド・クラフツ展開催中になります)
日時:10月11日(土)午後6時開演
(午後5時より正面テラスにてプレ・コンサート)

●クリスマス・コンサート
日時:12月20日(土)午後6時開演
(午後5時より正面テラスにてプレ・コンサート)
なお、曲目は未定ですが、決まり次第広報いたします。

友の会に入会してください!

友の会は美術館と美術館を愛好してくださる皆様との、より一層の親睦を図るための組織です。定期代わりに会員証をご利用いただき、随時展覧会をご観賞いただくのも便利ですが、これからは、皆様と共に、展覧会を考え、支えてゆくものとして、新たな出発をいたしたいと考えております。一般の年会費は5,000円(学生3,000円)の他、サポーターをご希望される方は、年会費20,000円、更に、組織としてご協力くださる法人会員には年会費100,000円以上などがございます。さまざまな困難が、わたしたちから多くの楽しみや安らぎを奪ってゆく時代ですが、こんな時代だからこそ、豊かな文化や新鮮な芸術を育て、支えてゆきたいものです。友の会を通じて、是非ご支援をお願いいたします。

● 開館時間
午前9時30分〜午後5時(入館は午後4時30分まで)
● 夜間開館
4月15日(金)—9月2日(金)までの企画展開催中の金曜日
午前9時30分〜午後8時まで(入館は午後7時30分まで)
● 休館日
毎週月曜日(月曜日が休日に当たる場合は、翌日が休館)、及び年末年始
(開館時間、休館日は臨時に変更する場合があります)

※お車でお越しの場合　岡崎公園駐車場(地下)をご利用の有料入館者は、駐車場の割引(1台1名)を受けられますので、駐車券をお持ちの上お越しください。

● 交通案内

独立行政法人国立美術館
京都国立近代美術館
The National Museum of Modern Art, Kyoto
〒606-8344　京都市左京区岡崎円勝寺町
TEL. 075-761-4111
テレフォンサービス 075-761-9900
ホームページ　http://www.momak.go.jp